

群 教 ゼ	H03 - 01
	平16.218集

# 積極的に聞き取り、 相互交流を深められる生徒の育成

- 「読書へのアニメーション」の手法を用いて -

長期研修員 高橋 智子

## 《研究の概要》

本研究は、積極的に聞き取り、会話を豊かに展開する「聞き取る力」を伸ばすことによって、相互交流を深められる生徒の育成をめざしたものである。「聞く」ことはコミュニケーションの起点であり、「伝え合う」ためには、聞き手と話し手との間に双方向の交流が生まれるべきである。総合的な学習の時間に、「読書へのアニメーション」の手法を用い「聞き取る」過程を重視した実践授業を行い、検証を行った。

【キーワード：中高一貫教育 コミュニケーション 聞き取る力 読書へのアニメーション】

## I 主題設定の理由

中高一貫教育校である群馬県立中央中等教育学校の総合的な学習の時間の一領域「COM」（コミュニケーション）は、国語・英語両教科との連携を図りながら、さらに言語能力を高めるために設けられ、6年間を見通して、日本語を中心とした基本的なコミュニケーションのマナーの修得から、英語を中心とした実践的な活動に発展していくよう計画されている。

学習指導要領では、国語科が言語の教育であることを重視し、国語による表現力・理解力の育成とともに、「伝え合う力」の向上を目標とすることが明確にされている。「伝え合う力」とは、「適切に表現する能力と正確に理解する能力とを基盤に、人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉によって伝え合う力」（中学校学習指導要領解説編）である。「伝え合う力」は「コミュニケーション能力」の中核を成す力だと考える。社会生活に必要な「言葉」による伝え合いは、単に「伝える」だけでなく、「伝わる」（ことを実感できる）ことが必要不可欠であり、より精度の高いコミュニケーションを指すと考えるからである。そして、「伝わる」ことを実感し、心が通い合うためには、聞き手と話し手との間に双方向の交流が生まれてくる必要がある。しかし、従来、そのために必要な機会や時間を、国語や英語をはじめとする単独の教科で十分に確保することは難しかったのではないかと。

「COM」の授業により、生徒たちはコミュニケーションにかかわる知識や技術を系統的に学び、活動する時間を十分に取ることが可能になっている。生徒たちは、コミュニケーションにかかわる技術を向上させる機会や経験を多く得るとともに、その重要性や必要性についても理解してきている。この授業の記録・観察を通してコミュニケーション能力を向上させるための授業について検証したいと考えた。

## II 研究のねらい

積極的に聞き取り、相互交流できる生徒を育成するために、「聞き取る」力に注目し、「読書へのアニメーション」の手法を取り入れた授業の有効性について考察する。

### Ⅲ 研究の見通し

「読書へのアニメーション」の手法を用いて、「聞き取る」力の育成を重視した活動を行えば、生徒たちは積極的に聞き、考え、そこには相互交流が生まれてくるであろう。

### Ⅳ 研究の内容と方法

#### 1 研究の内容

##### (1) 「伝え合う力」と「聞き取る力」について

コミュニケーションとは、言語非言語を問わず、視覚や聴覚を媒介として、知覚感情思考が伝達されることを意味し、広義では人間以外による伝達や移動をも含む(「広辞苑」)。一方、「伝え合う力」には、言葉による その場に応じた適切な表現力(発信) 相手を尊重し、適切に理解する思考力(受信)に加え、「伝わる」こと(をお互いに実感できること)が不可欠であると考えられる。「伝え合う」行為には、「目的や相手、場面や状況に応じて、伝える(話す・書く)内容を定める」「話す」(発信) 「聞き取る」(受信) 「理解する」、これら四つの、連続し繰り返される過程が想定される。(図1) 発信と受信とは時に交錯し、話し手と聞き手も交代しながら交流が行われる。この過程のためには、まず、お互いのことやお互いが話す内容を進んで理解しようとする態度が根底において必要となる。そして、「話す」力、「聞く」力に加えて、言語活動の具体的な場面でどのような表現が適切であるかを判断し、相手の反応を確かめ、考えながら会話を運ぶ認知面での働きが不可欠となる。

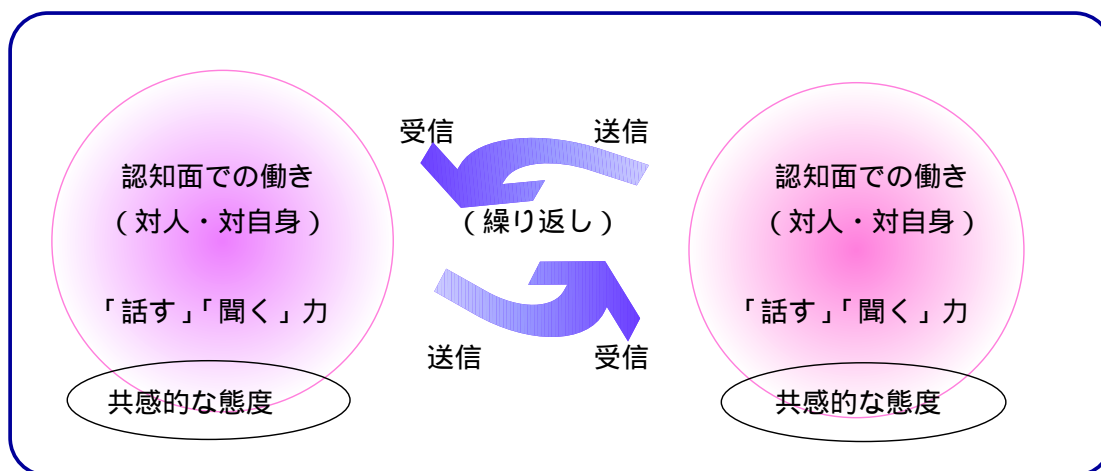


図1 相互交流の様式図

本研究で、特に注目したいのは「聞き取る」の部分である。高橋俊三氏の調査(「批判的に聞き取る能力の達成状況」(1997.6))によれば、小中高校生の、「批判的思考をはたかせることによって実現する聞き取り能力」は「いささか欠陥がある」とされ「自分に必要な情報」を抜き出すことや、「反論したりして新たな考えを得る力」についての課題は達成状況がよくない、という。日本においては、伝統的に「聞き手」としての態度は、受動的・消極的なものになりがちであり、話し手に対する質問やあいづちのあるべき姿や方法を身に付けることは、今日的な課題である。能動的に聞くことは話し手への興味と思いやりを伸長させることにつながり、会話の内容をさらに発展させると考える。例えるならば、「会話のキャッチボール」の

ボールが、雪玉のように大きくなっていくようなものだろう。聞く活動を能動的・積極的なものにし、より発展的な相互の交流を行うためにも、学習者の「聞き取る力」を高める指導を重視していくべきではないか。「聞き取る」ことは、聞き手が話し手に応じ、相互の交流が生まれるための重要な起点であり、活動の内容としては、単に「聞く」だけでなく、「聴く」(注意して聞く)、さらには「訊く」(相手に質問する)までも含むと考える。この「聞き取る力」が身に付くことによって、「伝え合う力」は大いに高められると考える。

具体的には、あいづちやうなずきにより、相手の話を聞いていることを伝えながら、妥当性や相互関係等について考え、確認的な、時には反論的な質問を行うことも必要であり、それによって、会話は充実した、あるいは発展的なものになり、双方向の「交流」となるだろう。(図2)

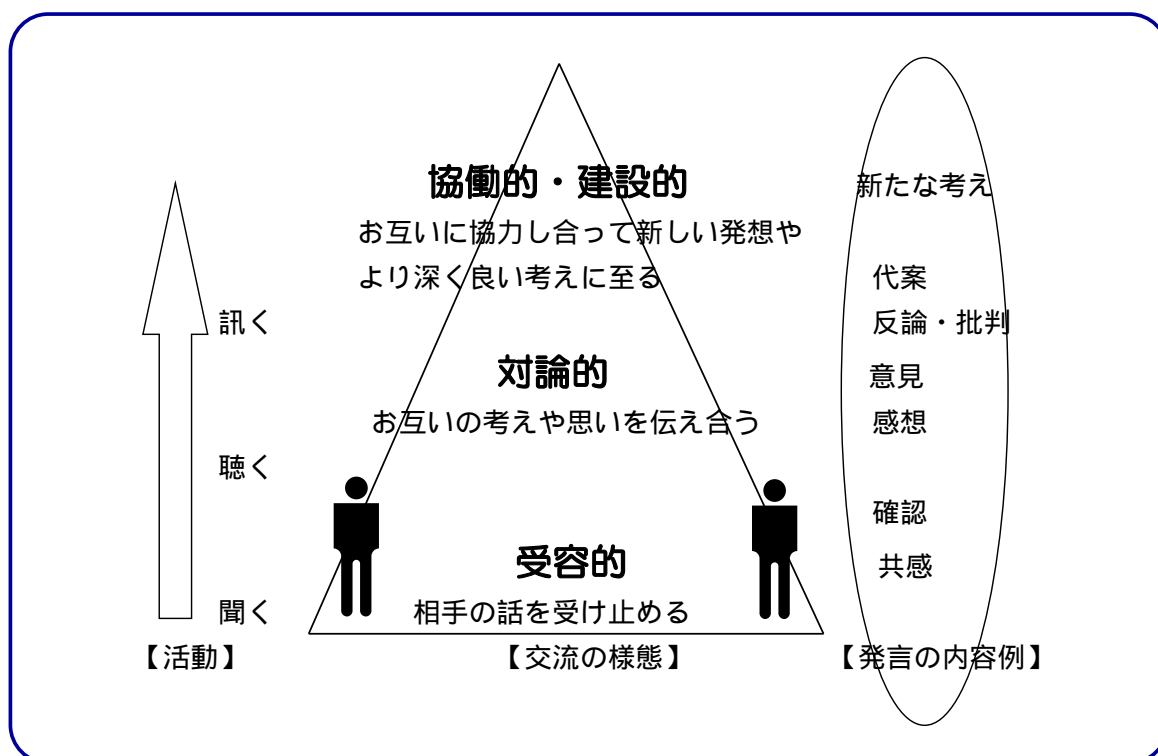


図2 「聞き取る」場面の様式図

(2) 「COM」と単元「本や詩を読んで、思ったこと考えたことを伝え合おう」について

中央中等教育学校の総合的な学習の時間の領域の一つ「COM」の授業では、中等教育の6年間を見通し、国語と英語の有機的な連携により総合的なコミュニケーション能力の育成を図っている。「身に付けたい能力や態度」は「関心・意欲・態度」「表現の能力」「理解の能力」「知識・理解」の四観点によるが、「表現の能力」には「声量や速さなど、聞き手のことを考えて正しく表現したり、読み手に分かりやすく書いたりする能力」、「理解の能力」には「相手の意向や大切な内容を正しく理解したり、相手の立場や状況を考えて聞き取ったり読み取ったりする能力」とされており、国語科での目標と重なり合う部分が多い。「COM」の領域は国語科と連携、相互補完し合い、発展していく性質のものであると考える。(図3)

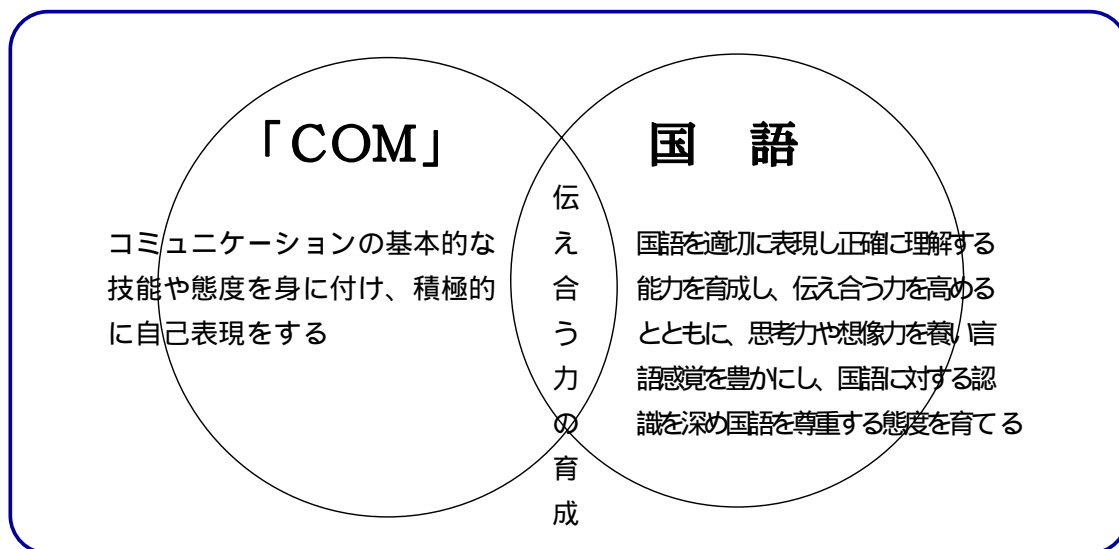


図3 「COM」のねらいと国語の目標の関連 (群馬県立中央中等教育学校スタディガイド・中学校国語学習指導要領より)

「これからの時代に求められる国語力について」(文化審議会答申2004.2)では「考える力、感じる力、想像する力、表す力」が「国語の知識」「教養・価値観・感性等」とともに、「国語力の中核を成す」とされ、そのためには「自ら本に手を伸ばす子どもを育てる」ことが何よりも大切だとしている。読書の重要性が国語力とのかかわりで関連付けられた上で注目すべき内容である。

「COM」では、夏休み中の読書をふまえ、9月下旬から、8時間相当の単元「本や詩を読んで、思ったこと考えたことを伝え合おう」の授業が、「読書へのアニメーション」の手法を用いて実施される。

「読書へのアニメーション」は、子どもたちの実態に合わせて、読む力を引き出すために系統的に考えられた手だて(日本語訳は「作戦」 原語は「*estrategias*」)である。指導者(「アニメーター」と称される)は、対象となる集団の読書に関する実態を見極め、共通して予読する本や詩、「作戦」を選択し、子どもたちの主体的な活動を重視した援助を行う。この手だての大きな特徴は、次の三点であると考えている。

まず、楽しみながら自然に、読書活動へと誘えること(特徴)。

次に、この活動の実施においては、一人で考え、発言する時間が確保・重視され、それぞれの意見を尊重することがルールとされていること(特徴)。

最後に、積極的・主体的な参加とコミュニケーションの共同性が保証されていること(特徴)である。

子どもたちは、共通の読書体験をもとに、まず、一人でじっくりと考える。指導者は、その時間を確保すると同時に、その考えや思いを受容的に受け止める。次いで、子どもたちは、お互いの考えを伝え合い、仲間と協力し、目的を達成していくことになる。「読書へのアニメーション」の活動では、一人一人が聞き、考え、そして仲間と意見を交わし合うための「聞き取る」活動を重視している。子どもたちが、自分に割り当てられた質問や問題を、予読の内容と結びつけて内面化するためには、一人で静かに考える時間が、そして、ほかの人とのやりとりによって、考えを深め広げる時間が不可欠なのである。

「読書へのアニメーション」の目的は子どもを読書行為へと誘うことであり、活動を通じたコミュニケーション能力の向上は副次的な産物となるだろうが、本研究ではその点に着目し、聞き取る力を伸ばし、相互交流を深める効果的な手法の一つとして用いようと考えた。

表1は「読書へのアニメーション」の手法と従来の手法との大きな違いである。同じ本や詩を用いても二つの手法には大きな違いがある。この違いをふまえたうえで、「読書へのアニメーション」の手法を「聞き取る」力を高めるために用いた、「本や詩を読んで、思ったこと考えたことを話し合おう」の単元の授業を計画した。

表1 「読書へのアニメーション」と従来の手法との違い

	「読書へのアニメーション」の手法	従来の手法
担当者	アニメードール 子どもたちの考えや思いを「引き出す」	教師（知識の伝達者） 指導や援助を行う
見極める実態	読書にかかわる実態	学習にかかわる実態
評価	アニメードール自身が「作戦」を振り返る・子どもへの評価は行われない	教師が子どもを評価する

同単元は、複数の単元にわたる「コミュニケーションアクティビティ 読書を通して表現力を高めよう」の最初の単元であり、「友人の感想や意見に対しての質問や反論が活動の中心になるような」活動に発展していく。共通の読書体験をもとに伝え合うこの授業で、生徒に「聞き取る」場面を多く提供し、活発な相互交流を促進したい（図4）。

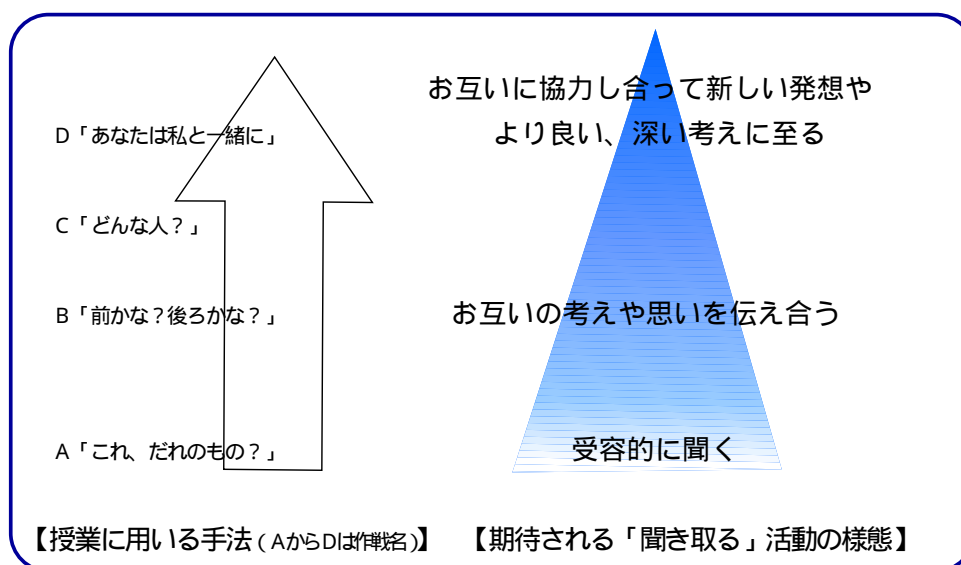


図4 授業計画と期待される「聞き取る」活動の様態との関連

## 2 研究の方法

研究の見通し	検証の観点	検証の方法
「読書へのアニメーション」の手法を用いて、一人一人の聞き取る時間を重視した活動を行えば、生徒たちは積極的に聞き、考え、そこには相互交流が生まれるであろう。	(1)用いた手法や教材は適切であったか？  (2)生徒の聞き取る時間を十分に設定し活用できたか？  (3)生徒たちは積極的に聞き、考え、相互交流していたか？	生徒の観察やアンケート結果の分析・ワークシートの分析を行い、生徒の関心を喚起し、個々の授業の具体的な目標を達成できたかを検証する。 「聞き取る」時間や、ワークシートの内容を分析し、生徒が積極的に聞き、考え、自分の意見を深めることができたかを検証する。 授業記録（逐語録を含む）の分析を行い、お互いを尊重し、会話を広げ深める表現や態度があったかを検証する。

### (1) アンケートの実施

コミュニケーションに関する能力や態度・意欲について生徒の実態を知るために、「COM」の授業を実施している群馬県立中央中等教育学校1年生全員を対象に記号選択式のアンケート（資料1）を実施する。補助資料として、「話す」「聞く」ことに関する自由記述式のアンケートを実施する。また、比較対照のために、県内公立A中学校1年生を対象に、同内容のアンケートを実施する。

半年後には両校で同内容のアンケートを実施し、変容についても明らかにする。

表2 アンケートの実施について

	時期	対象	形式	参照資料
第1回	6月下旬	群馬県立中央中等教育学校 1年129名（男子65名女子64名）	記号選択式 自由記述式	(資料2 - a)
	7月上旬	県内公立A中学校 1年123名 (男子65名女子58名)	記号選択式 自由記述式	(資料2 - b)
第2回	11月上旬	群馬県立中央中等教育学校 1年 126名（男子63名女子63名）	記号選択式 自由記述式	(資料2 - c)
	11月中旬	県内公立A中学校 1年123名 (男子65名女子58名)	記号選択式 自由記述式	(資料2 - d)

### (2) 抽出生徒の観察・記録

「COM」の授業により、さらなるコミュニケーション能力の伸長が期待される生徒を2名抽出し（A女・B男）、その変容を検証していきたい。検証には逐語録やアンケート結果を用いる。A女は、理解力・表現力に優れており、平素から自分の意見をしっかりと主張することができる。授業態度はおおむね積極的だが、関心の程度により、取り組みには大きな差がある。

B男は、誠実な努力家であり、普段から口数は少なめである。学習意欲は高く協調性もあるが、自分から進んで発言することは少ない。

(3) 単元「本や詩を読んで、思ったこと考えたことを伝え合おう」の授業実践

単元「本や詩を読んで、思ったこと考えたことを伝え合おう」の授業を計画・実施する。授業では、「聞き取る」活動を充実させ、相互交流を促す。

「聞き取る」活動を充実させるためには、生徒にとって 緊張感がある 目的が明確である 目的と自分とのかかわりが明確である 聞きたくなる、伝える価値がある、の条件を満たすことが重要だと考える。そのため、授業実践にあたっては、以下の点に留意した。

扱う本や詩について...テーマが明確であり、親近感をもちやすいものを選ぶ。

板書やカードについて...活動の目的が明確になるように工夫する。

ワークシートの記入について...自他の活動を振り返るために必要と考えるが、必要最小限になるように配慮し、「書く」活動に時間を取られすぎないようにする。

活動の単位人数について...活動に応じて、適宜、活動の単位となる人数を変え、コミュニケーションを活発に行えるようにする。

班員の構成や座席について...全体 班(5~6人) ペア(2人) と相互交流の様々な形態を経験できるように配慮する。また、発言しやすいよう班員の構成や座席を工夫する。

授業中の「きまり」について...お互いを尊重し、誰かが意見を述べているときには、それをしっかりと聞くようにする。また、発表の際には全員が発表にかかわれるようにする。

ア 授業実践について(学習指導案については資料3参照)

時期 9月~10月 時数 2H×8回

実施クラス 群馬県立中央中等教育学校1年 17名

表3 授業計画

授業名	主な活動の 単位人数	扱う教材	内 容	主な「聞き取る」活動
A 「これ、誰のもの？」 9月22日(水)	全体	絵本	「アベコベさん」(ワルピカサウ)を用いて、全体で絵本を読み味わった後、挿絵の一部を使い、物語を振り返る。	・注意深く聞き、絵本にかかわる質問について考え、教師とやりとりする。
B 「前かな?後ろかな?」 9月29日(水)	全体	小説	各自に配布された「夏の庭」(湯本香樹実)のキーセンテンスのカードを読み、考え、時系列に沿って座席を替える。全員で話し合い確認する。また、「オビ」を作り短い言葉で作品の魅力を表し相互評価する。	・お互いに協力して整序を行う。 ・「オビ」に込められた思いについて考え、意見を交換する。
C 「どんな人?」 10月6日(水)	班 5~6人	小説	班ごとに「夏の庭」の主要登場人物の一人を担当し、性格やその後の人生について意見を交換し、ポスターセッションの形式で発表、質疑応答を行う。	・登場人物についてのお互いの意見を交換し、考えを広げたり深めたりする。
D 「あなたは私と一緒に」 10月20日(水)	ペア 2人	詩	詩から抜き出された一行(Bカード) 残りの詩(Aカード)とを各自が持ち、黙読したり、読み上げたりしながら、詩を完成させる。	・詩を完成させるよう、お互いの意見を交換し合い、朗読発表について構想する。

イ 授業に関するアンケート(資料4参照)の実施

## V 実践の経過

### 1 アンケートの結果とまとめ（記号選択式アンケートの集計グラフは資料2 - a ~ 2 - d）

#### (1) アンケートの結果

以下の（ ）内はアンケート用紙の質問項目番号

ア 「相手によくわかってもらえる話し方をマスターしたいですか？」(8)「練習をすればスピーチや話し合いはうまくなると思いますか？」(10)「技術を身につけることによって、自分の考えがさらによく相手に伝わるようになると思いますか？」(11)の問いに対して中央中等教育学校では、両回とも9割近い生徒が肯定的に答え、強い意欲がうかがえる。

イ 「筋道を立てて考えが言えますか？」(11)について。6月には中央中等教育学校で4割弱だった肯定的な回答が、11月には6割強に達し、論理的な思考力、表現力については、自信をつけた生徒の増加が認められる。

ウ 「聞く」ことに関して。両校とも、良き聞き手であるよう心がけている様子が受け取れる。「ほかの人の考えを聞くのは得意ですか？」(7)に対して、中央中等教育学校の6月と11月とで大きな推移はないが、聞くときに、「相手の立場や気持ちを理解しようとしませんか？」(12)、「自分の考えとの相違を考えながら聞きますか？」(12)に対して、肯定的な回答をした生徒は増えており、聞く姿勢が充実してきていると感じさせる。しかし、「欠けている点や足りない点を見つけながら聞きますか？」(12)について目立った伸びは見られなかった。自由記述式のアンケートの質問の一つである「ほかの人の話を聞くときに心がけていることはどんなことですか？」に対し、中央中等教育学校では、「自分に思い当たることを探す」「相手の意見に関係している自分の考えを想像しながら聞く」「感想や質問を考えておく」「内容を想像して頭の中に世界を作る」「話を続けようとする」など、6月には見られなかった詳細な表現が散見した。

#### (2) まとめ

ア コミュニケーション能力の伸長に関して中央中等教育学校の生徒に大きな期待と意欲とが感じられる。

イ 中央中等教育学校では、「話す」「聞く」それぞれの場面で相手の気持ちや立場、反応を考慮する態度が顕著になってきており、COMの授業を「自分の考え方やものの見方を広げる」(14)と考えている生徒の増加に呼応しているようである。

ウ 相手の立場を思いやり、最後まで聞くという受容的だが、やや消極的ともいえる「聞き手」が多いことは両校に共通している。論理的に、あるいは、批判的に、「聞く」ということに関してはまだ、学習の途上のようなものである。さらに経験を積み、技術を身につけることによって「聞き取る」力は伸び、自己評価は肯定的なものに転ずると考えられる。

エ 中央中等教育学校では、自由記述アンケートの記述量が増えており、具体的な表現も多く見られた。コミュニケーションに関する技術や姿勢が定着している様子が見受けられる。

### 2 抽出生徒についての考察

#### (1) A女について

ア 逐語録（6月～9月の授業観察より）

単元「会話の基本スキル」の授業（ステレオタイプな人物について寸劇仕立ての発表を行う）6月より

【各班の発表前に机間巡視する教師とのやりとり】（太字はA女の発言）

逐 語 録	考 察
D男:「先生これ身振り手振りとか要るの?」	机間巡視の教師とのやりとりだが、ほかの生徒もいる中で自分の思いを遠慮なく表出するA女の様子が見受けられる。D
T:「もちろん、身振り手振り握手必要なものはなんでも入れてください。」	
A女:「なんで握手すんの。する必要ないよ。」	



T:「アイビーム!とかね。」 A女:「...いらぬ。」 D男:「班で考えていんだよね。うちの班はなくていいんじゃない?」	男はうまくそれをフォローしていた。
--	-------------------

\*

【「ステレオタイプ」の説明の際、具体的な姿を挙げて全体に説明する教師とのやりとり】

T:「例えば A型だから几帳面である、という決めつけ。」 T:「今時の若い者はあんなこともできない。」 A女:「そんなことはないです。」 T:「私に言わないでくれよ。」 A女:「言いたくなるんです。」	教師の言葉が自分に対するものであるかのように過敏に反応している。周囲はややあっけにとられた感があった。
--	---

\*

単元「シナリオを読む」の授業（「マクベス」の一節を2～3人組で演じ、生徒の司会により相互評価を行う）  
（7月）より

司会の生徒:「それでは感想をお願します。」 C女:「息が合っていてマクベス夫人がマクベスを後押ししているように感じられました。」 D男:「A女さんのマクベス夫人は怖かった。」 E男:「すごいこわかった。」 F女:「脅してたよね。」 A女:「なんでですか!怖くないですよ!」 F女:「こわかったあ。」 A女:「怖くないです。優しいですよ!」 司会の生徒:「感想ありがとうございました。それでは次の発表をお願いします。」	全体での発表後の場面である。やや意固地に言葉を繰り返す様子がある。A女を「怖い」と評した生徒には賞賛のニュアンスがあったが、A女の返答に気圧され気味であった。受容的に相手の考えを聞く、あるいは自分の考えを聞いてもらう、そういう体験がもっと必要なのではないか。
--	---

\*

単元「考えを伝える - プレゼンテーションスピーチ - 」の授業での話し合い（スピーチの良し悪しの規準を「技能」「構成」等の面から自分たちで考え、設定する）（9月）より

A女:「『構成』は何かあると分かりやすいわ、はいみんな!」(意見を促す) G男:「起承結結じゃん?」 A女:「いいこというじゃん。」 H男:「じゃあさ、暗記してスピーチする、と堂々とスピーチするのとジェスチャーを取り入れるのと、どっちが上?」 A女:「..わかんない。」 H男:「似たようなもんだよね。」 A女:「ジェスチャーしてもさ効果がなければしょうがないよ。」 I女:「そうだね、この班はジェスチャーより堂々とスピーチするのが大事、ということじゃない?」	班内での話し合いである。何度も同じ話し合いを経験しているうちとけたメンバーである。A女の「いいこというじゃん」と相手の発言を受容し、肯定的に受け止めている発言は非常に印象的であった。
---	---

イ 自由記述式アンケートの結果（原文をそのまま引用・下線は高学が考察上重要と思われる箇所を強調のため付した）

	あなたが自分の考えを言うときに心がけていることはどんなことですか	ほかの人の考えを聞くときに心がけていることはどんなことですか	「COM」の授業を受けてどんなことを感じましたか?
6月実	「 <u>自分の意見を主張する</u> 。相手が違う意見だったとしても絶対負けぬように。絶対的な自信がある時は大きな声で。弱みを	「この人は何を伝えたいのか。聞き間違えの無い様に。」	「相手との会話は意外に考えてみると難しいもので中々自分の気持ちが伝わらず、もどかしさを感じた。表現する事の難しさと大切さ

施	見られないように弱さを見つけられても反論されてもひげを取らず、強気に。」		に気づいた。相手を傷つけない様に、も大切だと思った。」
11月実施	「先ず、人を傷つけるか否かが一番です。そしてどうしたら伝わるか、を考えます。相手の反応を見る、というのも大切かと思ひます。自分の意見を言ったらどうなるのか先読みします。」	「相手はどんな気持ち・意見があるのだろうか、という事です。そして相手の立場になり、私だったらどうするかという事、相手の伝えたい事を考えます。考えても分からなかったら聞き返してみたり、まとめてこれで良い?と聞くようにしています。」	「『楽しい』が一番です。COMは社会で、もっとはびこれば国際でも重要だし、大切です。私はこちらからもCOMに真剣に取り組み、これからの生活・社会そして未来に生かしていきたいと感じました。相手の事を考え、自分の気持ちを伝える難しさを知り、それをこく服したいと思ひます。」

一学期には、話し合いに積極的に参加するものの、自分の意見を強く押し通そうとしたり、性急に事を進めようとする態度が多く見られた。また、全体の発表における発言も、丁寧な表現ではあるが、会話を広げたり深めたりするものではなく、一方的なものに終わることが多かった。しかし、A女は、五月に行われた「おうむ返しエクササイズ」で自分の言葉をそっくりそのまま相手から返される、という体験により、自分の言葉に気を付けるようになったようである。本単元の授業においては、誰かが意見を述べているときには沈黙を守りじっくり聞くこと、お互いの意見を尊重し合える時間を十分に設定したことは、A女にとって、自分の意見を見直し表現に配慮することにつながった。また、一つの意見に集約したり正解を求めたりする必要はない、としたことは、話し手の意見をじっくり聞き、理解しようとする姿勢につながった。

記述式アンケートの結果からも変容がうかがえる。11月の記述は、より詳細でコミュニケーションの相手を意識した内容となっており、話し手あるいは聞き手として、良いコミュニケーションをはかろうとする姿勢がうかがえる。

約半年間の観察を通して言えることは、コミュニケーションの「場」を考慮し、それにふさわしい発言（表現・内容）をしようとする努力が顕著になった点である。相手の発言をさえぎることが少なくなったこと、発言の末尾に、「...だと思っただけ」と言ったり、「いいこと言うね」など、相手の発言を認める表現が出てきたことは注目される。聞き手を意識して表現する習慣が身についてきたようである。これは、コミュニケーションの機会をさまざまな形で与えられ、経験を積んでいることが要因の一つになっているだろう。

## (2) B男について

### ア 逐語録

単元「考えを伝える - プレゼンテーションスピーチ -」の授業での話し合い(スピーチの良し悪しの規準を「技能」「構成」等の面から自分たちで考え、設定する)(9月)より(太字はB男の発言)

逐語録	考察
J女:「自分の伝えたいことをしっかり話す、ジェスチャーを入れる、ちょうどよい長さ、どれが一番大事?」(付箋を動かしている) B男:「...」 K男:「なんかさ、どれもべつもんだよね 内容としては、」 J女:「じゃあ、どうするか、もっと簡単なのからやる?」 L男:「『やる気がない』のはいちばん下だね。」 J女:「うん。」	KJ法を用いて班ごとの話し合いが行われている場面である。B男は真剣に話し合いに参加しており、強く主張することはないが、求められればきちんと意見を述べている。6月頃には見られなかった様子である。ほかの人の考えをよく聞いている様子であるが、会話を広げ深める表現はまだ見られないようである。

K男:「これはお顔面というか?内容というか?」 J女:「B男君、ジェスチャーはどこにおいたらいいかな?」 B男:「ここ、かなあ。」(付箋を貼る) J女:「ああ、うん。なんでそんな上?」 B男「ジェスチャー使えとかつこいれいというか、スピーチが目立つ。」 K男:「成功するとね。」	る。
--	----

イ 自由記述式アンケートの結果 (原文をそのまま引用・下線は高動考察上重要と思われる箇所を強調のため付した)

	あなたが自分の考えを言うときに心がけていることはどんなことですか	ほかの人の考えを聞くときに心がけていることはどんなことですか	二ヶ月間、「COM」の授業を受けてどんなことを感じましたか?
6月実施	「自分の考えをしっかりとめてから言うようにしている。」	「相手にちゃんと話を聞いていると思われるようにしている。」	「相手と目を10秒間目を合わせたのがすごく大変だった。色々なエクササイズをやったけど、ふだんしていないことだったのでむずかしかった。」
11月実施	「言うことを整理してから言うようにしている」	「 <u>しっかり理解しようとしている。あいづちを打つ、うなづく、ときどきコメントする</u> 」	「コミュニケーションは生きていく上でとても大切なことだけれども、それをうまく行うのは難しい」

6月頃には、他人の目を見て話すのが苦手のようなB男だが、コミュニケーションの機会や必要性が増し、発言の場面が目立って増えてきている。次第に、自信をつけてきているようであり、自分の発言が時に「うける」楽しさに気付いているふしもある。他の生徒に話を向けたりすることはないが、意見を求められたときには、相手の目を見ながら一生懸命話そうとする様子が見られる。11月実施のアンケートに、聞き手として心がけている点に具体的な記述が見られることは、授業中の積極的な態度と呼応しており、注目される。

本単元の授業においては、特に、登場人物に対する意見を交換し、深める活動(授業名:C「どんな人?」)の際、積極的に活躍していた。B男が特に関心を示していた登場人物を担当できるよう配慮し、班員の構成を工夫したことが功を奏したと考える。考えを十分に引き出せるよう、教師が聞き役になりながら生徒個々の発言の時間を確保したこともB男にとっては効果的だった。

### 3 授業実践についての考察

#### (1) 各授業の様子

授業名:A「これ、誰のもの?」

逐語録	観察
T:「これはどんな絵かな?」 (絵本の挿絵の一部を模写したカードを示して) M女:「んーと、アベコベさんちの、あれ、だれの絵かな。反対になっているから...」 T:「うん。」 M女:「あの一画面の左端、このへんに出てきた絵だ。」 (手振りを交える) T:「そうそう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちは身を乗り出し興味深い様子で絵に見入っている。</li> <li>・指名された生徒は絵にかかわる記憶や思いを呼び起こそうとしている。</li> <li>・記憶がどんどんよみがえる・周囲もうなずきながら見守る。</li> </ul>

M女：「となりの人のうちの絵だ！さかさまになっている。」  
 T：「そうだねえ。さかさまだねえ。」  
 M女：「それは、となりの家に来たアベコベさん一家が、直しちゃったんだよ、いいふうに。」  
 T：「なるほどー、いいふうにねー。」  
 M女：「アベコベさんちにとっては、これがふつうというか、いいと思っている。」  
 T：「そうだね。」  
 M女：「...」  
 T：「はい、他に付け足したいことがある人いますか？」  
 N男：「はい、この部屋ではみんな、植木鉢とかイスとか、さかさまになっていたと思います。」  
 T：「そうだったねえ。」

・さらに補足の説明を行うことができた。

・沈黙のきまりを守っていたほかの生徒が発言する。続いて数人の生徒が覚えていたことを述べる。

沈黙のきまり 誰かが話しているときはほかの人は話さずに、じっくり聞こう、という授業中の約束



〔カードについて思ったことを話す〕



〔作成したカードの一部〕

本時では、生徒の答えの正否や内容の良し悪しにこだわることなく、受容的な態度で、一人一人が、考えたり言葉に表したりする時間を確保した。指名を受けた生徒は絵にかかわる記憶や思いを呼び起こし、考えながら答えていた。教師としては、それを引き出すような態度や発問に配慮した。この授業では、緊張感をもって生徒が取り組んだ様子が見ええた。また、絵本や活動の内容も新鮮で、意欲的に取り組めたように思う。活動が終わったあとに、確認のために絵本を手取る生徒が多かったこともそれを裏付けている。ただし、発問の仕方によっては、読解や暗記テストに近くなる可能性があることも感じた。

授業名：B「前かな？後ろかな？」

逐 語 録	表現の内容
Q男：「これ、もう、夏休みじゃない？」	(問題の提起)
R女：「そうだよ、夏休みは塾があさからあるんだよ。」	
S男：「そうそう、学校より早く家を出るんだ。」	(同意)
Q男：「朝からおじいさんちに張り込んでるんだらう？だからさ、じゃあ、T男ちゃんとU男ちゃんの順はどうなるんだよ？」	(質問)
V男：「ゴミ捨てはさ、おじいさんに『嘘つけ』と言われてそれがいやで始めることだったよね？だから、T男とU男は入れ替わった	(意見)

ほうが いいんじゃないかな？」	
S男：「はい(挙手) 僕 もそう思う。自分から出してるんだよ。おじいさんに操られるのはいやだと考えているんだよ。だから、おじいさんと仲良くなる前だと思う。」	(意見)
R女：「あーそうか。いいこと言うねえ。」	(共感)
Q男：「じゃあ、U男くん - T男くんの順になるね。」	(確認)
V男：「じゃあ、そこはもうOKだね。」	(確認)

\*

W女：「A女ちゃんはさ、X男くんのあとだと思う、だって台風が来てコスモスが気になっておじいさんちに集合するんだよ。」	(意見)
V男：「ああ、そうか。コスモスはもう植わっているんだね。」	(確認)
W女：「そうそう。だからさ。A女ちゃん、もう一回読んで。」 (A女読む)	(提案)
複数：「あ〜。」「うんうん。」	(共感)
V男：「家をさ、修理するのはいつなんだ。」	(質問)
X男：「おれんところで、ペンキ塗ってるよ。鮭の箱とかでてる。」	(意見)
Y女：「ふうん、修理はコスモスのあと？」	(確認)
X男：「修理してからすぐ台風なんだよ、そこは覚えてる。」	(感想)
W女：「コスモス・修理・台風..なんじゃない？」	(意見)
V男：「あーそうだとしたらコスモスもけっこう育ってるかもね。」	(感想)



〔一人ずつカードを読み上げ、文章の前後  
を考えて自分の席を確定する〕

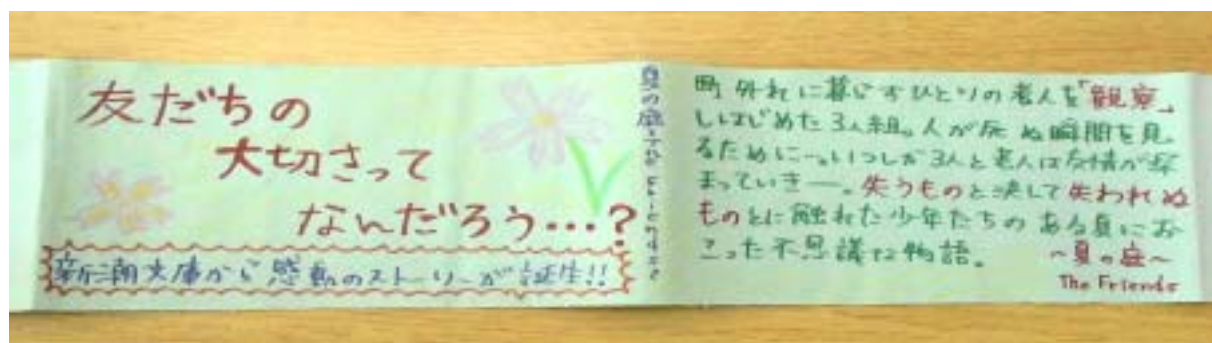


〔意見を出し合う〕

文章の前後を整序する活動の際、生徒の様子を観察していると、意見や確認の言葉で会話の内容が深まっていく様子が見て取れた。やがて、共通の目的のために、リーダーシップをもってその場を收拾しようとする態度が見られたのは印象的であった。前半の抜粋の部分ではV男が周囲の意見を確認しながら、まとめ役となっている。「ちゃんのカードはどんな内容か言って」と要約を求め合った場面もあり、「要約」を行うことで、考えを整理し、前後の内容を思い出せた生徒もいた。また、「 、という言葉が出ているからこの順番だよ」などと、キーワードを持ち出し根拠のある発言で賛意を得た生徒もいた。異なる意見を聞き取り、論点を整理する態度の育成に役立ったと思う。一方、活動が長引くと話し合いについていけなくなる生徒もいる。関心を持続させ、全体をひきつけることの難しさを感じた。

後半は、「夏の庭」の文庫本に装着し読み手を引きつける「オビ」を個々に作成するという

活動を通して、受信者を想定し、伝えたいことを短い言葉にまとめる能力を育成した。



〔生徒が作成したオビの一例〕

授業名：C「どんな人？」

授業では、自分からは進んで発言しにくい生徒を、受容的で気配りのできる生徒のいる班に配する、特定の登場人物に強い思い入れを示していた生徒にその登場人物を担当させ活躍できるようにするなど、班分けの工夫を行った。また、生徒の様子を見ながら、話し合いの時間を短く数度に分けて設定する、発表に全員がかかわるよう指示することで、話し合いが漫然としないよう配慮した。

生徒の様子	教師からの支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目線が一定しない</li> <li>・筆記具や本にさわる</li> <li>・伏し目がち</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「です」で言い切る</li> <li>・単語の散発</li> <li>・顔が上がってくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「意見を集約しなくてよい。全員の意見を聞こう」「全員がかかわる発表をしよう」をきまりとする</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目線が一定する</li> <li>・顔を上げる</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの顔が近づく</li> <li>・会話が続く</li> <li>・身を乗り出す</li> <li>・ジェスチャーを交える</li> <li>・友だちに話題を向ける</li> <li>・さかんにうなづく</li> <li>・笑顔</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を例示する</li> <li>・机間巡視（確認や質問）（肯定的なあいづち）</li> <li>・その場の全員に意見を求める</li> </ul>



【話し合いの始まり】



【話し合いの後半】



【発表】

図5 生徒の授業中の様子

それぞれの読書体験から得たイメージの違いを楽しむ授業となった。全体で登場人物名を列挙し、それぞれの人物への思いを聞いた時には、「面白い人」「変わっている」など、感覚的・表面的な答えが多かったが、話し合いを通して各登場人物への考察を深めることができた。発表では、小物をうまく使って効果的な発表ができた班もあった。全員が発表にかかわるとい

うきまりは、各自が発表を自分のこととして考え、工夫する結果になった。話し合いの時間を細かく分けたことが緊張感を高める一助になった。しかし、班ごとのワークシートにより、人物像に関する意見を交換する際、KJ法を用いるなど、より、「コミュニケーションの授業」を意識させた方法のほうがよかったと思われる。人物像について「読解」に陥らないよう、どこまで深めるべきなのか時間の制約も併せて、見極める必要がある。

授業名：D「あなたは私と一緒に」

逐語録	観察
<p>X男：(Bカードを読んで)「Y男くとペアになるかと思うんですが...、ちょっと言い方が浮いちゃう感じなので...。Y男くん、もう一度読んでください。」</p> <p>Y男 朗読する</p> <p>X男：「あ。ありがとうございます。でもな...。...自信がないので、スペシャルシート(考える時間が欲しい生徒のための席)に座ります。」(クラス全体：笑い)</p> <p>ほかの生徒が席をひとまず確定したあと、</p> <p>X男：「うーん、順番が逆になってたんだな、わかりました。Y男くとペアになります。」</p> <p>T：「この場所で大いですか？」</p> <p>Y男：「そうだな、やっぱり、ここしかないよな。なんで迷ったんだよ。」</p> <p>X男：「いや、ここは思ったんだけど、ひょっとしてほかにもっとぴったり合うところがあるかなあ、と思って。」</p> <p>T：「そしたら、なかった？」</p> <p>X男：「はい。なんていうか...。」</p> <p>T：「うん。」</p> <p>X男：「詩だから、意外なところにくっつかなあと思って聞きました。」</p> <p>T：「そうだねえ考えちゃうよねえ。」</p> <p>X男：「はい。」</p> <p>Y男：「でもまあ、ここしかないよな。」</p>	<p>X男は何度か首を傾げながら真剣にAカードの朗読を聞き考えていた。</p> <p>確信を得ることはできず、予め設けられた席に座る。笑いが起こりやや緊張がほぐれる。</p> <p>全体がうなづく。</p> <p>Y男は相手がなかなか確定せずややいらいらしていた様子。「ああ」「ふーん」と言った共感の声が生徒から漏れる。</p> <p>X男は自分の考えを述べ、納得もでき、満足した様子だった。</p>

X男は、何事にも積極的で自分の納得のいくまで取り組むことのできるタイプである。沈黙を守りよく考えていた。担当した詩は少し難易度が高かったかもしれない。選びやすい、分かりやすいものだけにせず、詩の内容や表現にバリエーションを持たせたことは、緊張感を高める良い結果になった。緊張した面持ちで読み上げられる詩を聞いていた生徒が相手を見付け、安心した顔で着席していく様子は印象的だった。

## (2) 授業実践についての考察

「聞き取る」活動を充実させるために、緊張感がある 目的が明確である 目的と自分とのかかわりが明確である 聞きたくなる、伝える価値がある、の条件を満たす内容が不可欠と考えた。からは独立した項目ではなく、相関し合うものであるが、まず、この4点から授業実践を考察したい。

本や詩を用いた、ゲーム的要素のある授業は、目新しさも手伝って生徒の積極的な取り組みにつながった。また、2時間続きの授業時間を活用し、一回で完結する授業を組み立て、授業の目標を明示したことにより、生徒の緊張感を高められた。さらに、全員が発表にかかわると

いうきまりを作ったこと、指名も含め、全員が発言できるような機会を作ったことも緊張感を保たせる要因になった。 についてはおおむね達成できたと思うが、自分の分担が終わると安心して、発言がなくなる生徒もあり、個々の活動と全体の活動とを結び付け、生徒全員の関心を持続させる難しさも感じた。

については、授業の目標や活動の目的を、簡潔でイメージがわかりやすい形で板書や例示した結果、生徒の活動はスムーズであった。 については、教材（本や詩）の選定を慎重に行うことの重要性を感じた。生徒に十分考えさせることのできる、しかも魅力的な教材を選ばなくてはならない。また朝食の目玉焼きには何をかけるかといった単純な話であっても認知的なギャップの生まれる題材を選ぶほうが交流が活発になることも感じられた。

次に、生徒の「聞き取る」活動について。本や詩をコミュニケーションの題材に用いることは各自の発言の背後に論拠をもたせるという点で画期的であったと考える。「本のここにこう書いてあった。」「こんな書き方だったからこう考えた。」などという発言がよく聞かれたことは大きな収穫であった。自由に広がりをもたせることや、広がった話題を目的に向かって収束していくことにおいても、本や詩が活動の根底にあるというのは効果があったと思う。

生徒たちは、きまりと共通の目的とを理解し、「批判」や「反論」に至らないまでも、聞き取るための発言を互いに出し合い、そこには相互交流が生まれていた。授業において、伝わるのが実感でき、お互いの考えや思いが広がり深まるための要件について以下のように考える。（図6）

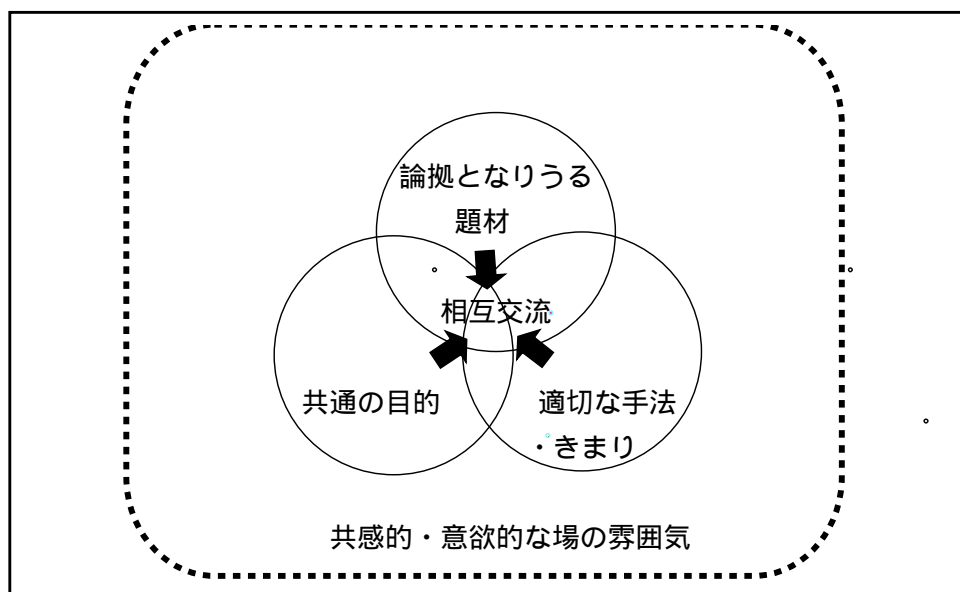


図6 「COM」の授業において活発な相互交流が生まれるための要件

集団の性質や場の雰囲気や要素がもっとも大きいですが、それらを考慮し、手法・目的・題材が適切に選択されれば、相互交流は生まれてくるものと考えます。

最後に、副次的な産物ではあるが、「本が好き」「読書が好き」という生徒に活躍する場を与え、個々の登場人物について深く考えたり、文章を視覚化したり、注意深く読んだりする、今までにない読みを経験する機会を設定できた。



## VI 研究のまとめと今後の課題

### 1 まとめ

個々の発言の時間を確保し、「自分の意見をちゃんと聞いてもらえる」と生徒が思えるようにしたことは、お互いを尊重する態度につながり、教師が、生徒の考えや思いを「引き出す」態度を心がけたことは、生徒が自分の考えを整理したり、うまく伝えようと努力したりする姿勢につながったと考える。逐語録の検証によると、抽出生徒にも他人の立場や思いを理解し、より良くコミュニケーションを取ろうとする姿勢が表れており、友だちや教師とのやりとりが一方通行に終わることは少なかった。積極的な聞き手になることがコミュニケーションを活発にすることを生徒の様子から確認することができた。

中央中等教育学校の生徒は半年間の「COM」の授業により、コミュニケーションの基本的なマナーや技術を身に付けている。生徒は、ロールプレイやスピーチ、戯曲など、さまざまなコミュニケーションのかたちを経験し、他者を理解し尊重し合う態度を身に付けてきている。本単元（「本や詩を読んで、思ったこと考えたことを伝え合おう」）は、今までの授業で培った、コミュニケーションにかかわる基本的な技術や態度を応用し、論拠をもって話し、コミュニケーションを深める力を伸ばす単元として、設定されている。授業の細部では、友だちの考えや思いや考えを尊重する態度や要を得た発表内容や態度などに、授業の成果を見ることができた。

実践授業では共通の読書経験を拠りどころとして全体、4～5人、2人という異なる人数構成での活動の場を設定した。生徒たちはそれぞれの場面で聞き手を意識して、考えを述べ合っていたが、特に、全体での話し合いの場面では、賛意を得られるよう、論拠をもって発言したり、代案を積極的に示したりする態度が見られた。興味ある題材、目的を得た生徒たちが、積極的に聞き取り、相互交流を深めることができていたと考える。

本単元においては、「読書へのアニメーション」の手法を用いた活動を行い、相互交流を深める授業を実施したが、次の二点から、「COM」の2時間続きの授業時間を有効に使うことができたと考える。「読書へのアニメーション」に必要な、課題や目的を理解し個人が考えるための時間と、一つの目的に向かって小集団や全体が協力し合う時間とを十分に確保できた。生徒が自他の活動を振り返る時間を弾力的に確保できた。

### 2 群馬県立中央中等教育学校の総合的な学習の時間「COM」(コミュニケーション)に「読書へのアニメーション」の手法を用いる上での提言

読書という個人的・内的な経験を共有し、相互交流を活発にするためには、まず、お互いを尊重し合う雰囲気醸成しなければならない。それは、「自分の思いや考えを聞いてもらえる」「自由に言える」と生徒が実感することである。今後さらに、「聞き取る」活動を充実させていく必要があると考える。また、実施上の留意点としては、20人に満たない少人数でホームルーム以外の場所を用い、机や椅子を使わずに半円形に座るなど、気軽に、お互いにコミュニケーションを取りやすい形態を取るべきである。

「読書へのアニメーション」の手法を、相互交流を深める目的で用いるためには、活動する上での制約（お互いの意見を尊重するために、誰かが話しているときは、ほかの人は沈黙を守る・主体的な参加を求め、強制はしない等）を、授業のきまりごと・コミュニケーションする上でのマナーとして活用することが、重要と考える。そして、「読書へのアニメーション」の手法を用いた授業を効果的に行うためには、生徒のコミュニケーション能力にかかわる実態を見極め、「話す」力や「討論する」力など、とくに重点を置き、伸長を期待する力に応じた手法と題材とを適切に選択していかなければならない。来年度以降は、目的や生徒

の実態に応じた継続的計画的な実施が望ましい。(図7)

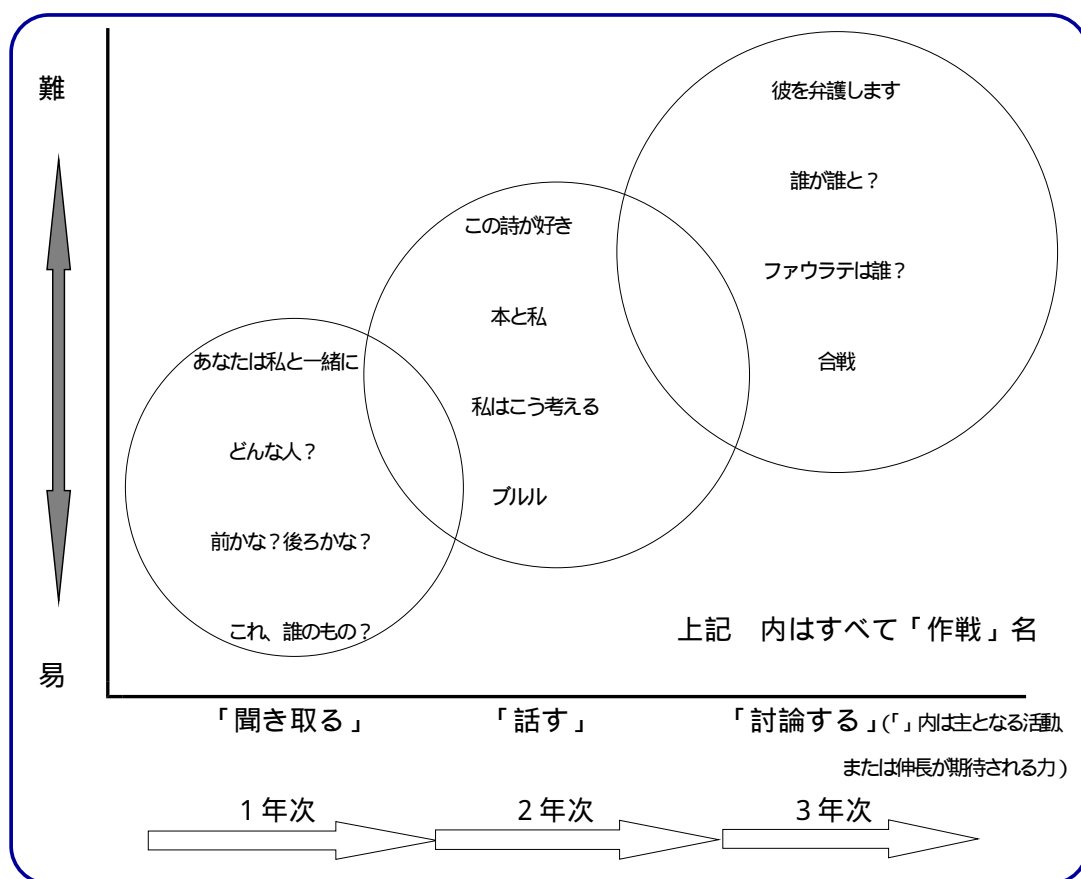


図7 「読書へのアニメーション」の手法を用いた「COM」の授業構想図

「読書へのアニメーション」の手法を用いた授業の中では、教師からの問いかけや活動の内容により、自己評価や相互評価を伴う場面が多い。それらを観察することで、教師は「引き出す」支援（指導）を行いながら、評価をも行うことが可能である。以下に、活動に対する評価について試案を示した。(表4)

表4 【「読書へのアニメーション」の手法を用いた活動に対する評価について（試案）】

時数	評価項目	評価方法等
8	「聞き取る」 (積極的に聞き取り相互交流を深めることができる)	<b>【ワークシート・観察・発言】</b> 十分満足できる生徒の具体的な姿 ・聞き取りの表現を交えて積極的に聞き、会話を広げ深めている ・聞いたことの要旨を的確につかみ、自分の意見に生かしている ・必要なことを適切に聞き取り、活動の目的を達成している ・相手の立場や考えを尊重し、相互の交流が生まれている ・相手の目を見、相手に身体を向け、真剣に聞いている 努力を要する生徒への手だて ・考える時間や場所を確保する・相手の立場や状況を想像するよう助言する ・「なぜ」という理由を考えながら聞いたり話したりするよう助言する

8	<p>「話す」 （伝えたい思 いを効果的に 伝えることが できる）</p>	<p>【ワークシート・観察・発言】</p> <p>十分満足できる生徒の具体的な姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の反応や様子を見ながら、聞く側と一体化した効果的な発表を行う</li> <li>・伝えたいことを、聞き手を意識しジェスチャーやナンバリング、例示などを適切に用いて効果的に表現する</li> <li>・聞き手の賛意を得られる説得力のある内容を話す</li> <li>・相手や目的、場面に応じて伝えたいことを的確に選択し、まとめる</li> <li>・ほかの人に参考にされたり影響を与えるたりする表現ができる</li> </ul> <p>努力を要する生徒への手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声表現の効果について理解できるようにする</li> <li>・発表メモを作る</li> <li>・拍手や事後にコメントを言い合うなど発表のマナーを周知し、「伝える」楽しさを理解し経験できるようにする</li> </ul>
8	<p>「討論する」 （円滑に相互 交流しお互い の考えを深め 合うことがで きる）</p>	<p>【ワークシート・観察・発言】</p> <p>十分満足できる生徒の具体的な姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論拠をもって意見を交わし、話し合いを発展させ、より深い考えに至る</li> <li>・課題を解決するために論点を明確にした上で自他の考えを話し合う</li> <li>・円滑なコミュニケーションを通して自己理解や相互理解を深めることができる</li> </ul> <p>努力を要する生徒への手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物事を論理的、客観的にとらえ、必要に応じて概括する</li> <li>・論点を整理し、単純化して自分の考えをまとめられるようにする</li> </ul>

参考文献

- ・ M・M・サルト 著 『読書へのアニマシオン - 75の作戦』 柏書房(2001)
- ・ 村松 賢一 / 花田 修一 / 若林 富男 共著  
『相互交流能力を育てる「説明・発表」学習への挑戦』 明治図書出版(2004)
- ・ 堀 裕嗣 著 『発信型授業で「伝え合う力」を育てる』 明治図書出版(2003)
- ・ 高橋 俊三 著 『批判的に聞き取る能力の達成状況』 群馬大学教育学部紀要46巻(1997)
- ・ 平山 満義 著 『質的研究法による授業研究』 北大路書房(1997)

積極的に聞き取り、相互交流を深められる生徒の育成  
- 「読書へのアニメーション」の手法を用いて -

長期研修員 高橋 智子

目次

1 コミュニケーションに関するアンケート(記号選択式)	P.882~883
コミュニケーションに関するアンケート(記号選択式) 結果(グラフ)	P.884~887
2 総合的な学習の時間 指導案	P.888~900
3 実践授業に関するアンケート用紙	P.901